

2000年度 見学会報告（第5回システム・ネットワーク化委員会 議事録）

日時：2000年11月16日(木)～17日(金)

場所：筑波大学・図書館情報大学・農林水産研究センター

参加大学：20大学 29名

愛知医科大学、愛知学院大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、愛知大学、岐阜経済大学、金城学院大学、皇學館大学、椛山女学園大学、鈴鹿医療科学大学、中京大学、中部大学、豊田工業大学、豊橋創造大学、名古屋外国語大学、名古屋造形芸術大学、南山大学、日本福祉大学、名城大学、四日市大学

筑波地区の2大学及び1行政施設の見学を行った。

1. 筑波大学（11月16日 13:00～15:30）

はじめに筑波大学図書館についての概要説明がなされたあと、電子図書館システムについての説明とデモンストレーションが行われ、最後に図書館ボランティアについての説明がなされた。その後3班に分かれ館内の見学を行った。

また、以下の質疑応答がなされた。

- 開架図書の点検はどうしているのか
返却図書の配架のため5名のアルバイトを雇っているのみ。特に行っていない。
- 和装本の整理についてどうおこなっているのか
江戸期以前のものデータの記述基準がないため、天理大学・九州大学と協力して取りまとめた要望書をNACSISに昨年度始めに提出した。古典籍についての目録基準も出来るだろう。
- 図書館ボランティアについて、選考方法や業務の振り分け方法、一般の利用者の反応などはどうか
選考は、申込書に志望動機や特技などを記入してもらい、面接を行う。更新方式なので、更新する人数によって毎年採用人数が違う。業務は、ボランティアカウンターに2名在席、1コマに3～4名ボランティアがいるように振り分ける。業務はあくまでボランティアの自由意志、ノルマはない。一般利用者の反応については、レファレンスカウンターで気軽に聞けないことをボランティアカウンターで聞くことができ、なれない利用者にとって良いようだ。
- 中央図書館の蔵書数170万冊を越えたらどうするのか
今の段階では、研究室に必要なものを貸し出ししている。それを管理替えし、さらには廃棄も考えている。中央図書館の増築も要求する。
- これからの電子図書館構築における課題はなにか
シラバスやその参考文献のデータ（全文・リンク）といった学生向けコンテンツの構築が必要であると考えている。

2. 図書館情報大学（11月16日 16:00～17:00）

図書館の概要についての説明を受け、実習室などの学内の設備見学を行った後、図書館内を3班に分かれて見学した。

質疑応答では「筑波大学との合併について」の質問が出され、それに対して「来年度に合併する予定である。」との回答がなされた。

3. 農林水産研究センター（11月17日 10:00～12:00）

計算センターマシン室を見学後、図書館についての概要説明、WWWディレクトリサービスについての説明がなされた。その後、図書館内の自由見学を行った。

以上